

*本メールは、関東更生支援ネットワークにご登録いただいた方々にbccで一斉配信しております。

~~~~~

目次

- 1 今月の再犯防止トピックス  
「保護司・館ひろし!?」  
「11月の再犯防止・更生支援関連イベントのご案内!」
- 2 再犯防止・更生支援ワード解説コーナー Vol.2  
「農福連携」って何?
- 3 更生コラム「アスキザス」Vol.4  
～心の闇と悪魔のささやき～
- 4 お知らせコーナー  
「関東更生支援ネットワークの愛称募集、締切間近です!」

~~~~~

1 今月の再犯防止トピックス
「保護司・館ひろし!?」

館ひろしさんと言えば、皆様はどんなイメージをお持ちでしょうか。昭和生まれの事務局担当者的には、「あぶない刑事」のクールな刑事役など、圧倒的に刑事のイメージが強いのですが、そんな館さんが、保護司として主演するテレビドラマが、今月から放映されます!

「生きて、ふたたび 保護司・深谷善輔」というタイトルで、11月28日(日)よる10時から、NHK BSプレミアム・BS4K同時放送、全8回にわたって放送されます。法務省保護局・東京保護観察所の取材協力のもと、ドラマの舞台になっている東京の下町の地区の保護司の方々が考証役を担っていただいたとのこと。

保護司・深谷善輔を館ひろしさんが、善輔が担当する保護観察対象者の小山結子を浅丘ルリ子さんが演じます。保護司が主人公となり、更生保護における立ち直り支援が正面から描かれるドラマの放送は、本邦初とのことですよ!

詳細は以下のページをご覧ください。

<https://www.nhk.or.jp/dramatopics-blog/30000/455101.html>
(NHKのテレビドラマ告知ページです)

* * *

「11月の再犯防止・更生支援関連イベントのご案内!」

○ “社会を明るくする運動” 埼玉県推進委員会の広報動画を「さいたま新都心駅」改札前の大型モニターで放映中です。(期間は11月末まで)

○ さいたま保護観察所のホームページに、埼玉県知事の広報動画(県少年課のページ、YouTube埼玉県公式チャンネル)のリンクを貼り付けておりますので、是非御試聴ください。(期間は年度末まで)

詳細は以下のページを御覧ください。

https://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_k_saitama_saitama.html

○ 11月26日（金）、第25回早稲田矯正保護展がオンライン（Zoom）で開催されます！

今回は、「触法高齢者の社会復帰 ～司法と福祉の更なる連携に向けて～」をテーマに、大橋哲前矯正局長をゲストに迎えてお話を伺うとともに、学生とのトークセッションなども行われます。プログラムは以下のとおりとなっています。

- 12:50～13:00 開会あいさつ・講演者の紹介
＜第一部＞
13:00～14:00 大橋哲氏による基調講演
14:00～14:30 講演者と学生によるトークセッション
＜第二部＞
14:45～16:30 学生による研究発表

ご参加を希望される方は、以下メールアドレスからお申し込みください。
hogoten2021.25th@gmail.com
(第25回早稲田矯正保護展実行委員会宛てメールアドレス)

~~~~~

## 2 再犯防止・更生支援ワード解説コーナー Vol.2 「農福連携」って何？

再犯防止・更生支援の分野における「ワード」を解説していくこのコーナー、第二回は「農福連携」です。

\* \* \*

なぜ再犯防止・更生支援に「農福連携」？とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。

農福連携とは、もともと、農業と福祉の連携を指す言葉であり、障害をお持ちの方が農業を行うことによって、農業サイドの担い手確保という課題を解決しつつ、障害者の活躍の場を広げるというWin-Winの関係を指すものです。

そして近年、この農福の「福」を更に広げていこうという動きがあり、例えば生活に困っている人や、引きこもりの人に加えて、罪を犯してしまった人たちも担い手となっていくことが期待されています。

コロナ禍においては、新たなストレス解消方策として、屋外で気軽に楽しめる貸し農園が人気を博していると聞きます。農業により土と親しみ、苦勞して作物を育て、収穫し、また種を蒔いて、というサイクルは、人に充足感を与え、「癒し」となっているのかもしれません。

風雨に耐え、花を咲かせて実をつける農作物に、罪を犯した人の立ち直りを託していくことが、新たな「農福連携」として注目されています。

~~~~~

3 更生コラム「アスキザス」Vol.4 ～心の闇と悪魔のささやき～

社会派推理小説はトリックよりも動機を重視した。松本清張はいう。「犯罪動機は人間がぎりぎりの状態に置かれたときの心理から発するからだ」。個人が背負う動機と、動機を呼び起こした社会に鋭く迫った。

× × ×

「あなたは、なぜやったのですか？」

犯罪をした人たちの動機、とりわけ「魔が差した瞬間」を迫った本がある。（NNNドキュメント取材班「高齢初犯 あなたが突然、犯罪者になる日」）

- ・電車の中で酔った乗客の財布を盗んだ65歳。「本当に頭が真っ白だった。警察で何度も聴かれましたが、覚えていないんです」
- ・所持金がありながらビタミン剤を万引きした70歳。「はじめは買うつもりで薬局に行ったんです。それなのに変な気持ちが出てしまったんです。自分でもわからないけど」
- ・同級生に貸した金が戻らず63歳で強盗致傷。「なぜ強盗という大胆な行動に走ってしまったのか。自分の心理についていまだに自分でも理解できないんです。自分の心に潜む恐ろしい一面を知りました」

× × ×

作家で精神科医の加賀乙彦さんは、心の中で乱反射する犯罪へ押しやる声を「悪魔のささやき」と呼び、新書に著している。半世紀以上にわたり人の心を見つめてきた者として、加賀さんは「悪魔にささやかれた、としか言いようのない現象が人間には確かに起こり得る。これは断言できる」とまで語っている。

では、悪魔のささやきはどのように聞こえてくるものなのか。はっきりと声が聞こえたというケースはまれ、という。加賀さんが「どういう声で、どこから聞こえたか、どんな内容だったか」を尋ねる。「いえ、何かを言っているのがほんとに聞こえたわけじゃなくて、そういう感じだったってことなんです。だれかに動かされるみたいに、気づいたらやっちゃってたんですよ」。そういう答えが返される。精神が緊張し何かに向かっていているときには聞こえない。ぼんやりしているときにだけ、ふと聞こえてくる。試験を受けるとき、車を運転しているとき、仕事をしているとき、意識は緊張している。心理学が主に取り上げているこの種の意識ではなく、意識には辺縁意識とでもいうようなものがあるのだという。ぼんやりとして、ふわふわ浮遊するようなもの。人は意識と無意識の間の、ふわふわとした心理状態にあるときに、犯罪をおかす。実行への後押しをするのが「自分ではない者の意思」のような力、すなわち「悪魔のささやき」なのだと言加賀さんはいう。まどろんだ状態にある意識は、人を思わぬ方向へと誘い出すというのだ。

睡眠を活用した脳機能の向上を研究する宮本浩行・東京ニューロインテリジェンス国際研究機構特任准教授も似たようなことを話している。意識として感じられているのは脳の膨大な情報処理上の一部。まどろんでいる時、寝ている時は、意識的な制御が減少するためコントロールできないものや本音では出せない部分が夢などとして現れてくることがあるらしいのだ。

大乘仏教に唯識と呼ばれる思想がある。私たちが普通「心」と考える「意識」は、いわゆる五感を含めて、表層意識と捉える。そのすぐ下に2層の無意識がある。末那識（まなしき）と呼ばれる潜在意識は、自分に執着し続ける心の働きとされる。自我を守る煩悩である。さらにその下に阿頼耶識（あらやしき）という根源的な領域がある。人間の思考や行動の営みは、阿頼耶識に刻まれ蓄えられる。阿頼耶識を突き抜けて、末那識や意識に作用することがあるとされる。末那識は、ユングにおける「個人的無意識」といえ、阿頼耶識は「集合的（普遍的）無意識」と似ているという。

× × ×

文学は心のかたちをとらえる。人間の意識をどうつかむかは大きなテーマである。村上春樹さんの小説では、しばしば井戸が登場する。井戸は心の回廊の象徴であり、村上さんは無意識の領域の地下室の空間に「ときどき入って、なんかぼんやりする」と語っている。やはり「ぼんやり」の世界なのである。この地下室の下にはまた別の地下室があり、魂に通じる。

村上さんは、4月の早大の入学式での祝辞で語っている。

「ぼくらが普段「これは自分の心だ」と思っているものは、心の全体のうちの、ほんの一部分にすぎない。つまり、僕らの意思は、心という池から汲み上げられたバケツ一杯の水みたいなもの。つまり残りの領域は手付かずで、未知の領域として残されています。ぼくらを本当に動かしていくのは、その残されたほうの心です」。心は奥深い。「点と線」でくっきりとは結べない。心のかたちは水の象（かたち）のようである。

~~~~~

4 お知らせコーナー

「関東更生支援ネットワークの愛称募集、締切間近です！」

前号のお知らせコーナーでも紹介させていただきましたが、今、関東更生支援ネットワークでは会員の皆様から「愛称」を募集しています！

募集期間は今月末日まで！

通勤・通学の合間に、勉学・家事・仕事・読書の休憩時間に、ちょっとだけ皆様の頭脳をお貸しいただき、「こんな名前、良いかもな」とふと思いついたものを、メールに記載して事務局までお送りいただけませんか？

応募した愛称が見事採用された方には、刑務所作業製品の詰め合わせ（3,000円相当）を贈呈いたします！

応募は事務局宛てメール ([1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp](mailto:1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp)) にて、タイトルに「関東更生支援ネットワーク愛称」、本文に愛称案を一つだけ記載して応募ください。

応募はお一人につき一度限りとさせていただきます（複数の応募があった場合は、一番最初の案のみ採用とし、その他は無効といたします）。また、応募案が既に他の組織・機関等で使用されている名称と同一だった場合は無効となりますのでご注意ください。

皆様から頂いた案は、東京矯正管区と関東地方更生保護委員会で審査し、12月中に決定・発表させていただきます。

皆様からのたくさんのご応募、お待ちしております！

~~~~~

最後まで読んでいただきありがとうございました。

本メールマガジンの配信を止めたい方は、事務局（下記連絡先）まで、件名に「アスワ配信停止」と記載したメールを送信してください。本文の記載は不要です。

関東更生支援ネットワーク事務局 東京矯正管区更生支援企画課

Mail : 1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp

会員の皆様からのご意見・ご感想もお待ちしております！

~~~~~